

記 事

◎第7回理事会(昭.26.12.5)出席者: 大西会長, 富樫, 坂本, 西松, 今岡, 米元, 高畑, 丸安の各理事, 協議事項: (1) 昭和25年度文部省科学研究費による工学関係研究報告書の調査依頼について(JSC)は吉田徳次郎氏に委嘱し, 同氏の方針により委員会の構成その他について善処すること, (2) 日本工学会第6回大会についての照会につき本閣理事に同会と詳細打合せて貰つて同理事に一任すること(3) JSC 力学研究連絡委員会から明年 Istanbul で開催される第8回国際応用力学会議に派遣代表候補者推薦方照会については各支部の意向を聴いてから会長に一任(4) 明年開催される国際学術会議に学会代表を推薦することも各支部に照会すること。(5) 増築披露会について(6) 第1回土木賞委員会を12月13日に開催のこと(7) 丸安理事提案の最近特許の範囲が広すぎるため一般に困る場合があるとの声に対し坂本理事が特許庁吉藤幸朔氏に事情を照会すること。

◎各種委員会

1. 第1回昭和26年度土木賞委員会(昭.26.12.13)出席者: 青木楠男, 小宅習吉, 千秋邦夫, 広瀬孝六郎, 福田武雄, 町田保, 松村孫治, 最上武雄, 吉田徳次郎, 荒井利一郎(中部)伊藤令二(中, 四)の各委員, 大西会長, 本閣理事, 協議事項: 大西会長の挨拶について(1) 委員長互選の結果吉田徳次郎氏を推すことに満場一致可決し, 同氏から委員長としての挨拶があり, 引続き土木賞授与に関する規程を朗読。(2) 論文審査方法としては前回と同様編集委員会を下調をして数編を候補として挙げ, 且つこれ等に対し内容梗概を附すること。(3) (イ) 土木賞授与方針として著者2人以上の場合は各人に賞牌を差上げるとの意見もあつたが論文を対象とするのだから賞牌は原則として1論文1個として各人には副賞牌を贈呈すべきだ等色々議論があつたが結局実際問題に当面したときに協議の上善処することとした, (ロ) 決定に当り投票によらず小委員会で決定したらとの意見もあつたが投票による外に適当な方法がないのではないかとの意見もあり, これも次回委員会で検討することとした。(4) 次回委員会は編集委員会を下調が出来て各委員に誦書を送り1月下旬に開催のこと。

2. 水理委員会(昭26.12.14)出席者: 安芸委員長井口昌平, 伊藤剛, 岡田篤也, 京坂元宇, 左合正雄, 佐藤清一, 扇田彦一, 高畑政信, 寺島重雄, 林泰造, 本間仁, 横田周平, 米元卓介, 米屋秀三の諸氏。

本委員会は委員長外遊等のため暫く開催の機会がなかつたが, 水理公式集発刊後の常置委員会としての業務を勘案する必要があり参集することとなつた。

本委員会の行き方については戦後の情勢の変化による国内における水理の問題の重要性に対処し且つ亦国際的の水理に関する科学技術の交流に対する体勢を樹立するために第一着手として本委員会の構成について研討することとなつた。

1. 種々活潑な論議が交わされたが International Association for Hydraulic Research に対する国内委員会の構想とすれば機械学会その他の広汎な範囲を含むことを予想されるが, 一応従来の通り土木学会水理委員会として進むこととして委員の顔振れを選定して見る。

(在京委員)

経 本: 安芸皎一, 京坂元宇
 東 大……本間仁, 井口昌平, 嶋祐之
 大 学: 早 大……米元卓介, 米屋秀三
 中 大……林泰造
 土木研究所……佐藤清一, 吉川秀夫, 竹内俊雄, 村幸雄, 岸力, 荒木正夫
 建設省: 治水課……伊藤剛, 渡辺隆二, 横田周平
 利水課……柴原孝太郎
 水道課……岩井四郎, 寺島重雄
 地 建……細井正延

都水道局: 扇田彦一, 野中八郎, 田中淑造, 岩塚良三
 公衆衛生院: 左合正雄

電 力: 市浦繁, 高畑政信, 岡田篤也, 坂本龍雄
 港 灣: 浜田徳一

2. これを土台として追々全国的に学究の士を叫合して自立の委員会とすべきかどうかを研討するために以上の顔振れの中から準備委員を選定して委員会の構成, 方針等につき研究してもらふこととなつた。

主 査: 本間仁
 委 員: 米元卓介, 林泰造, 佐藤清一, 横田周平, 京坂元宇, 左合正雄, 高畑政信, 浜田徳一

3. 取敢えず着手する事業としては年間業績報告を作成して国内国外に発表する方法を研討する。

4. 準備委員会を12月26日(水)午後3.00~5.00とする。

3. 水理委員会第1回準備委員会(昭26.12.26)

出席者: 本間仁, 佐藤清一, 京坂元宇, 林泰造, 左合正雄, (1) 国際会議に対する国内委員会の構成を考える。水理研究連絡委員会(仮称)を日本学術会議内に設けて国内国外の連絡機関とし, 国内研究を推進するを目的とし各関係部門を綜合した委員会とする。(2) 横田委員の試案につき研討する。

A. 業務

i 「河川、水力、上下水道、かんがい排水、港湾、海岸等の諸分野における水理学上の問題の所在を明らかにし、会員一般の研究を要請する」ために委員会を全国的に発展して会員を叫合する。ii 「国内及び国外における注目すべき水理学上の研究、実験、資料、報告等について紹介する」ために広く問題を集めて簡単な印刷物として頒布する、それには年間約 10 万円の資金を必要とする。資金調達については次回に研究する。iii 「水理に関する国際的学術会議等に連絡を計る」ためには(1)水理研究連絡委員会と連絡すること。iv 「水理公式集の改善を計る」これは専門委員を設けて行う。v 「水理に関する講演会、研究会等を開催する」学会の研究連絡部と連絡して行う。vi 「図書の刊行等有意義と認められる事業を行う」

B. 組織

i 委員：東京近在は前回の顔振れを骨子として進めなお必要と認められる人を考えておくこと、各支部は北海道、東北、中部、中国四国、西部各2~3名、関西5~6名を1月15日頃までに推薦してもらうこと。

ii 部会：「河川、水力、上下水道、港湾等の部会を設けることができる」として部会の設置は後日にゆづる。

(3) 1月20日頃に第2回準備委員会を開く、出来れば資金の問題等もあるから芸芸、伊藤両委員の出席を願うこと。(4) 委員会の運営規程を設けること。本間委員が立案し次回に検討すること。(5) 次の諸氏を幹事候補とし次回に於いて決定すること。

学校：◎本間仁、井口昌平、林泰造 経本：京坂元宇建設省：本庁…◎柴原孝太郎 土研…岸力 水道：岩塚良三 電力：岡田篤也 港湾：浜田徳一 ◎◎は幹事長、副幹事長を示す

4. 編集委員会(昭.26.12.17) 出席者：本間、米元正副委員長並各委員及び小西地方委員(石原氏代)、小田地方委員、協議事項：(1)原稿審査報告及び新原稿審査委員の決定(2)第37巻第2号登載論文を下記の通り決定(3)土木賞候補論文の審査下調について次回までに各委員考究すること(4)討議及び寄稿依頼について(5)その他

嶋祐之：巾の拡がる水路に関する実験、松尾新一郎 外2名：現地に於ける地盤透水係数の一測定法、内田茂男：自由境界を有する非定常滲透流について、篠原謹爾：軽量コンクリートについて、加納俊二：両総用水第20号隧道圧気工法について、小西一郎・西村昭：突合せ溶接継手の許容応力について、目黒清雄・他2名：アメリカの洪水調節と河川流域処理。

5. 論文抄録委員会(昭.26.12.22) 出席者：大西

会長、広瀬委員長、五十嵐、岡木、河野、星野、八十島、山田、米元の各委員。昼食後懇談された要旨は次の通りであった。

広瀬委員長の挨拶：23年2月本委員会発足以来の各委員の御労苦に対し厚く謝意を表したい。特に米元八十島両幹事の御苦心に対しては深く御礼を申し上げたい。本委員会の事業は何れ後年或る時期に開設される性質のものであるから、本日お集りを願つて過去における経験談、苦心談をお聞きして後日の参考と致したい。

大西会長の挨拶：広瀬委員長初め各委員の3年有余にわたる御労苦に対し学会を代表し厚く御礼を申し上げます。本委員会を常置とするか否かについては理事会に諮つて決めることと致したい。

各委員のことは：非常に困難な事業で完成をあやぶまれたが委員長の強引な指導に推されて完結を見たのは誠に欣ばしい。経済的にも困難な時代であったが、会長のこれを超越した御理解によつて第4集も無事出版されたことは委員会として最も欣ぶべき事である。編集に当つては原稿の整備に難点があつた。原稿用紙の規定、原稿の書き方の統一、部門項目の明示等は今後最も注意すべき点である。委員会を常置的にして文献の集収、整理の方針を確立して進めば非常に楽であるがそれには専門の職員を必要とする。学会の現状では実現は困難とすれば各刊行物を出来るだけ多く学会に揃えて置いて欲しい。大体28年の半ばから発足して1年位でまとめる方針が考えられる。

◎その他

1. 事務所増築披露会(昭.26.12.8, 午後2時~4時) 増築に関して多大の賛助を寄せられた各社、名誉員、前会長、理事、常議員及び増築委員その他工事関係尽力者を招待し出席者約150名、非常に盛大であつた。

2. 第6回日本工学会大会の講演内容として(1)電源開発(2)地下資源の問題(3)最近の海運と造船(4)陸運の現状と将来(5)工業製品の貿易問題(6)工業金融事情の6問題として講師及び演題を関係学会と協議することとしたと同会から通知があつた。

3. 自然科学会連合から日本学会議会長宛に学術会議会員の定員、有権者の資格とその認定、選挙運動の制限と違反者に対する制裁等に関し、下記の通り意見書を提出した。

日本学術会議会員選挙等に関する

改正希望綜合意見書

1. 現在の定員が各部一律に30名であることは不合理である。有権者数を勘案して定員を定められたい。

2. 選挙有権者の資格としては、日本学術会議の認定した学会の正員で十分であること。認定に際しては、その学会の定款、会誌等から判断して、純然たる学会であること、又正員の資格が日本学術会議法第 17 条の定める所の資格に合致していること等を条件とすること。

3. 選挙は公営とし、やや詳しい候補者公報を配付する他、一切の選挙運動を禁止すること、又これを犯したものに対する罰則を設けること。

4. 投票は立候補者と被推薦候補者とに限定し、自由投票制を廃止すること。

5. 候補者名簿の閲覧の期間と場所とを増加すること。なお、参考として各学会の意見を次に記載する。

日本医学会で取りまとめたもの：(イ) 有権者の資格は学会の会員であること(ロ) 定員は有権者数で按分すること(ハ) 公衆衛生学を基礎医学に加えること(ニ) 法医学が基礎医学に入っているのは不適當である(ホ) 臨床医学の定員を増加せよ。

日本薬学会で取りまとめたもの：(イ) 専門別及び定員は現在通りでよろしい(ロ) 有権者は学会の会員であること。

日本農学会で取りまとめたもの：(イ) 定員数は有権者数を勘案して分配すべきである、(ロ) 1 学会につきできるなら定員 1 名位を配することが学術というものを表現するに適當であると思われる、(ハ) 有権者は学会の会員であつて、かつ研究者であること、(ニ) 獣医と畜産とを分離せよ(ホ) 土壌、肥料学は農芸化学とは分野を異にするので、これを分離すること。

日本工学会で取りまとめたもの：(イ) 定員数は有権者数を勘案して定むべきである、(ロ) 従来の選挙人名簿よりも少しく詳しいものを全有権者に配布し、一切の運動を禁止せよ、悪質な運動行為に対する罰則を設けよ、(ハ) 学会に有権者認定権を与えよ、(ニ) 生産会社内限りの研究論文は学会の審査を受けた後有効とせよ、(ホ) 投票は 4 名連記とし、内 1 名を専門、他の 3 名を専門に拘わらないものとする、而して専門としての投票のみを集計して専門別定員に充てること、かくすることにより少数有権者の専門も 1 名の定員をその専門のものを以つて確保することができる。

4. 応用力学連合講演会協議会報告 (1) 先般の連合講演会の総費用 60,099 円は参加学会で分担することを了承、(2) NCTAM へ出す書状案決定、(3) 第 2 回計画のとき考慮学術会議へ申出た事項(イ) 会期は 9 月下旬か 10 月上旬を希望、(ロ) 会場は同一建物内に各部会を設けること、(ハ) 出席者は総合講演 200~800 名程度を見込むこと、(ニ) 前刷に対する図面

の寸法、規格を定めること、又前刷をもう少し詳しくして貰いたいとの希望があつた、(ホ) 参加学会の内数学会、化学工学会、高分子学会等を如何にするか、(ヘ) 次回幹事学会をできるだけ早く決定されること。

5. 灌溉排水委員会 (昭.26.12.17, 農林省において) 米元理事出席 (1) 経過報告：日本が国際灌溉排水委員会に参加申請に対し承認の回答があつた。日本は政府(代表者農林大臣)が参加することとし、その諮問機関として審議会を設けるが、それまで当分協議会を作る、(2) 第 2 回 (1951.1.20. New Delhi) 国際灌溉排水委員会執行理事会議事録の説明、(3) 情報：(イ) 参加国 18, 会費年額 \$400, (ロ) 日本の参加承認に対して会費送付、(ハ) 図書室を完備する、(ニ) Chicago における 1952 年 9 月 3~13 日百年祭に際し、この委員会の第 3 回執行理事会を催すことを Gail A. Hathaway 氏から勧められて、それに応じ 9 月 8 日が充てられた。日本からも代表者を指名するようにと中央事務局から連絡があつた、(ホ) 中央事務局では毎年年報を作製するから協力されたいとの要望があつた。

支部だより

1. 東北支部：コンクリートポンプに関する映画会 (昭.26.11.30. 東北地建会議室において) 照井支部長以下 72 名が出席し盛会であつた。

2. 中部支部：研究発表会 (昭.26.12.6. 名古屋工業大学において) 出席者 180 名、限られた時間と会場の都合により A B 両部会に分れて開催、講演時間各 20 分の少ない時間に研究成果を手際よくまとめて発表し、質疑応答を交えて終始なごやかな雰囲気のうち、これを終り引続き特別講演として広瀬孝六郎博士より“上下水道の二つの動向”について極めて示唆深い講演があり、全聴講者に多大の感銘を与えて盛会のうちに研究会の幕を閉じた。尚講演者及び演題は次の通りであつた。

等角写像の近似的な方法 名工大 岡林 稔
木曾川の流出係数について 中部地建 中島 義英
最近竣工せる滝越発電所工事について

関西電力 杉山 光郎
焼津漁港修築について 静岡県 湯尾 留作
名古屋港災害復旧について

名古屋港管理組合 田内 守雄
組立暗箱とトランシットとを組合せた簡易写真測量機について

名工大 比企野広治
" 渡辺 新三
" 酒井清太郎

塑性理論による鉄筋コンクリート桁の強度

金大工学部 柳場 重正

名工大 河村 貞次

浜松米原間の電化工事の概要 国鉄岐工 溝口 博

少しづつ形の異なる一群の平板の解法

3. 西部支部 (1) 見学旅行会 (昭. 26. 12. 8~9 両日)

岐大工学部 四野宮哲郎

本年度支部行事として大分県大野川発電所を見学

木曾川橋梁補強工事の概要 名鉄局 真下 皆吉

し当日は快晴に恵まれ参加者 50 名を得て、有意義な

鉄道橋脚井筒沈下の一例 静鉄局 柴谷 肇一

見学会を無事終了した。

建設機械における混合機構の研究 (第 1 報)

写真-1

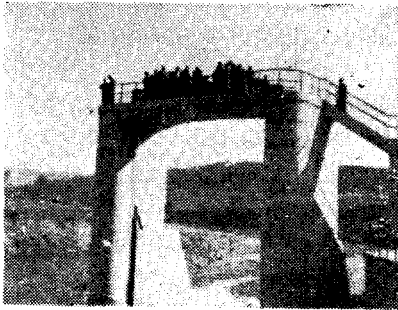
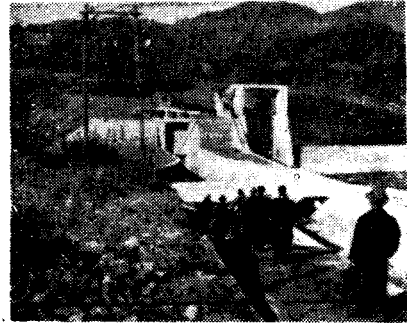


写真-2



昭和 26 年 12 月分入退会報告 (12. 1~12. 31 現在)

1. 入会 47 名 (特別員 4, 正員 7, 准員 12, 学生員 24)
2. 退会 21 名 (正員 5, 准員 13, 学生員 3)
3. 転格 22 名 (准員より正員 20, 正員より准員へ 1, 准員より学生員へ 1)

会 員 現 在 数 (26. 12. 31 現在)							合 計	増 加 数
名 譽 員	贊 助 員	特 別 員	正 員	准 員	学 生 員			
16	13	219	4 451	4 912	1 036	10 647	26	

謹 賀 新 年

編 集 委 員 会

委 員 長	本 間 仁	委 員	後 藤 正 司
副 委 員 長	米 元 卓 介	員	西 畑 野 村 俊
委 員	安 部 丹 康 夫	員	平 井 信 一
委 員	伊 丹 塚 良 三	員	丸 森 脇 三
委 員	岩 本 口 谷 逸 洋	員	安 隆 正 夫
委 員	岡 川 粕 神	幹 事	沢 宅 正
支 部 委 員	横 道 英 雄	関 西 小 西 一 郎	一 郎
北 海 道 北 部	井 部 勇 一	中 国 四 国 小 田 園 貞 一	一 則
東 中 部	荒 井 利 一	西 部 大 園 貞 一	一 則

昭和 27 年 1 月 10 日 印刷 土木学会誌 定価 80 円

昭和 27 年 1 月 15 日 発行 第 37 卷 第 1 号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地 中 川 一 美
 印刷者 東京都港区溜池町 5 番地 大 沼 正 吉
 印刷所 東京都港区溜池町 5 番地 株式会社 技 報 堂

東京都中央局区内千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話和田倉(20)3945番

発行所 社団法人 土 木 学 会 振替東京16828番